

論文番号	3 (第 11 回研究会 2013.11.23 於 恵泉女学園大学)
タイトル	複合動詞の名詞化の意味特徴に関する一考察
著者名 (所属)	志賀里美 (学習院大学大学院生)・竹内直也 (恵泉女学園大学非常勤講師)
連絡先 Eメール	tontonburiburi@live.jp (志賀)・take1234@basil.ocn.ne.jp (竹内)
<p>V + V型(以下VV型)の複合動詞は、動詞である以上、連用形とすることで名詞化することができるかとされている(以下VN型)。しかし、VV型の中にはVN型にならないものやVVの形を有さずにVN型でのみ用いられるものがある。さらにVV型とVN型が対応するような場合であっても、意味的に両者が対応しないものもある。どのような動詞が名詞化する傾向があり、またどのような意味特徴が見いだせるのだろうか。</p> <p>本発表では「VV-VN」(以下X型)、「VV-×VN」(以下Y型)、「×VV-VN」(以下Z型)の三者のパターンについて、「天声人語」約60日分(2013年6月22日～8月21日)のデータに現れた複合動詞と複合名詞、延べ156例を検討し、その計量的傾向(志賀担当)、名詞化するもの・しないものの意味的特徴(竹内担当)、そしてその総合的考察を行う(共同)。なお、名詞化の基準として、格助詞との接続テストにより判断した。</p> <p>「天声人語」に出現した複合動詞は132語、複合名詞は24語、計156語(延べ語数)であり、新聞では複合動詞が多く使用されている。また、それぞれの語が名詞化するか、動詞化するか判断したところ、X型:105語、Y型:47語、Z型:4語であった。一般的に複合動詞の連用形は名詞化するといわれているが、名詞化しないもの(Y型)が3割弱あることが分かる。更に、複合名詞の形しかないもの(Z型)も4語あった。Y型になるV2は、「(膨らみ)続ける」の継続相や、「(突き)つける」「(読み)進む」など動作性を強く有するものである一方、Z型は「勝ち負け」「痛み分け」「成り行き」「行き止まり」という状態性を有するものであった。以上のことから、動作性があるV2は、名詞化する場合と、しない場合があり、状態性を有する複合名詞は動詞化しないと言えるのではないだろうか。</p> <p>次に、VVとVNの対応関係を持つX型について意味的特徴をみていく。X型の意味関係についてみると、1. 両者同じ意味:83例、2. 一部の意味の抜けなど、意味の対応がない:18例、3. 全く異なる意味を持つ:3例、4. 臨時一語的:1例であった。</p> <p>2のパターンを見ると、「張り合う-張り合い」では共通して「競う」意はあるが、「撲り合う」意は名詞にはなりにくい。また「切り回す-切り回し」では切断の意では名詞化することはない。ここから、動作性の意では名詞化しにくいことが見て取れる。</p> <p>3のパターンでは、「振り出す-振り出し」のように動詞の際は「振ることを始める」という意味であるが、「振り出し」というと、スタート地点の意味となる。このような別個の意味を持つものは、名詞に独自の意味が付与され、動詞との乖離が進んでいると判断できる。</p> <p>これらの意味的特徴を総合すると、後項動詞の意味が動作性を有する場合、名詞化しにくく、状態性のものは比較的名詞化しやすい傾向が見て取れる。また、2グループの複合動詞は多義的であり、その中で名詞的に用いられないような動作を表す語は名詞化しにくいことが見て取れる。3グループについては、本来消失した意味を持っていた可能性が高いが、歴史的過程において複合動詞というよりも慣用句的なものとなっており、一種のイディオム化であると判断される。</p> <p>以上から、複合動詞の名詞化についてまとめると、以下の3点にまとめられる。</p> <p>① 名詞化しないものが約3割ほどあり、また名詞のみとなっている複合形もある。</p> <p>② 意味的側面から見ると、動作的意味を有する複合動詞は名詞化することは少なく、また状態性の意味をもつ複合動詞の名詞形は動詞との意味対応がなされない。</p> <p>③ 複合動詞の名詞化のみが残る例は、一種のイディオム化したものと見ることができ、文法化のプロセスをみることができる。</p>	
参考文献	<p>石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房</p> <p>長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」 『日本語講座 4 日本語の語彙と表現』 大修館書店</p> <p>西尾寅弥 (1961) 「動詞連用形の名詞化に関する一考察」 『国語学』 43号 国語学会</p>